

ヒメコウゾ *Broussonetia kazinoki* Siebold

クワ科 Moraceae

1. 利用対象部位：韌皮繊維

2. 組織形態：

2年目春の茎の横断面では一次維管束がほぼ環状に配列し、表皮は既に剥離し、周皮が形成されている。周皮の内側には皮層の柔組織が6細胞層程度あり、その内側に一次組織からなる繊維組織の環（一次繊維環と仮称）が形成される。繊維細胞は断面が丸みを帯びた多角形で、多数集まって環状に配列し、わずかに柔細胞をまじえる。

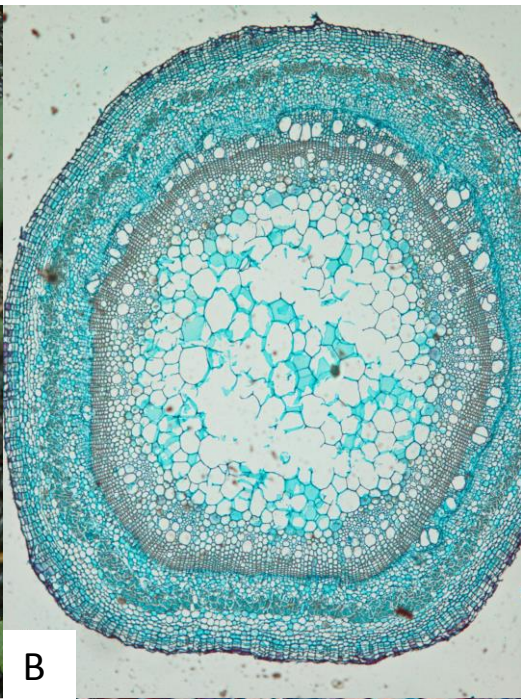
一次組織の分化に引きつづいて二次組織が形成されるが、本試料では二次篩部の形成がわずかしき無く、二次組織由来の繊維は形成されていない。

3. 利用例：なし（?）

4. 遺跡出土遺物：なし



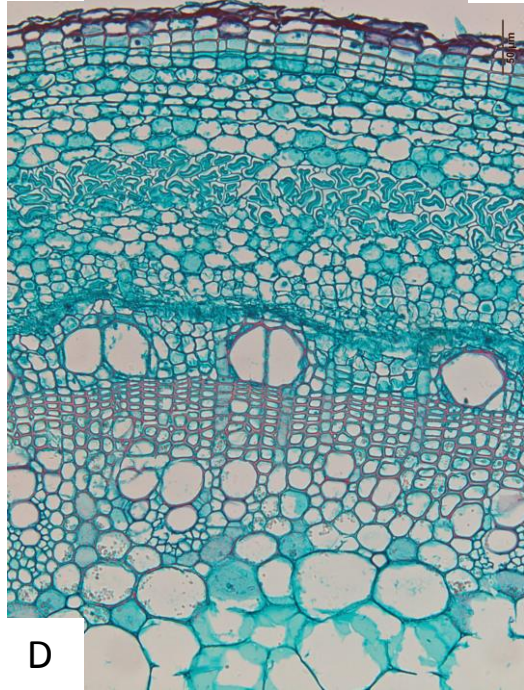
A



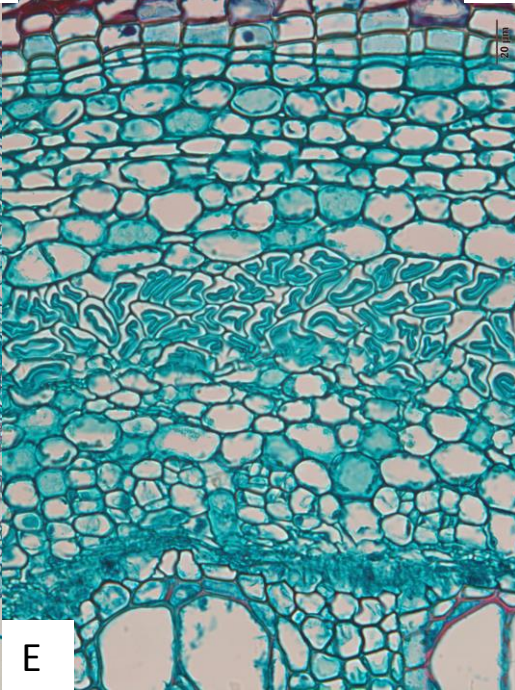
B



C



D



E

A:ヒメコウゾの枝は(熊本県あさぎり町)。B~E:2年枝春の茎の横断面とその様々な拡大。2年目の最初の道管が形成され、表皮は剥落し、周皮もで来ている。周皮の内側に6細胞層程度の柔組織があり、その内側に一次繊維環が環状にある。この試料では二次組織の形成が少ないので二次篩部の繊維は形成されていない。